環境シリーズ
はじめなきゃ！
Part 64

エコドライブしていますか？！

「エコドライブ」をはじめよう！

皆さんは『エコドライブ』という言葉を耳にしたことはありますか？

エコドライブとは、ガソリンや軽油などの燃料消費を抑えた運転方法です。エコドライブを実践すれば、燃料代の節約になるばかりでなく、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出抑制にも繋がります。

はじめよう!!
エコライフ

環境省の調査結果によると、２００８年度の温室効果ガス排出量は１９９０年比で1.9％増加しています。このうち自家用車からのCO_2排出量を１９９０年と比較すると35・6％と大幅な増加を示しています。これは、自動車の保有台数が増加したことが大きな原因だと考えられています。

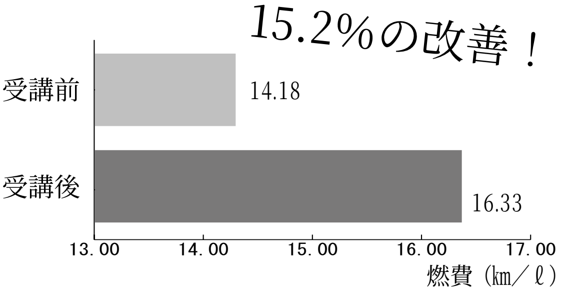
市内には、約３万台の自家用車が登録されていますが、国の調査では、家庭におけるCO_2排出量の約３割が自家用車からのものだと言われています。この自動車から排出されるCO_2を削減するには、低燃費車やハイブリッド自動車に乗り換えるのもひとつの手段ですが、「エコドライブ」は費用をかけずに、今日からすぐにでも実践できる方法です。

そこで、市ではエコドライブの普及を推進するため、平成19年度から運転実習を中心としたエコドライブ教習会を実施しています。今までに計39人が受講し、受講後、所属する企業や団体で講師となって、延べ300人以上の人に対して普及活動を行っています。

ぜひ皆さんも、温暖化防止と経費節減に役立つエコドライブをはじめませんか？

【問い合わせ】
環境課
☎589－6431
鍵589－5069

エコドライブ教習会　燃費測定結果（平均）



不法投棄は しない・させない！

※「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により廃棄物を不法に投棄した場合、「5年以下の懲役又は1,000万円以下の罰金」が課せられます。

不法投棄監視員による不法投棄
発見報告数　（平成21年4～10月）⇒ **131件**
※昨年の同時期に比べ53件増加しています。

市では、ごみの不法投棄の早期発見による環境美化の維持を目的に、各学区選任の14人の「不法投棄監視員」による定期的な現地の巡回監視と、この活動と連携したクリーンパトロール事業を行っています。

不法投棄の内容としては、空缶等のポイ捨てが道路脇に多く、また大型ごみついては人目につきにくい川沿いや山裾に多く発生しています。このようなごみをそのまま放置すると次の不法投棄を生み出すことに繋がることから、早期発見と撤去処分は重要な取り組みだと言えます。みんなの手で心無い不法投棄を防止し『ごみのない住みよいまち』にしましょう！

◎エコドライブの燃費改善効果とエコドライブのポイント！

○発進時は、ふんわりアクセルｅスタート！

ｅスタートの目安は発進後5秒で時速20㎞。

○加減速の少ない運転を！

車間距離に余裕を持って運転しましょう。

○早めのアクセルオフ！

早めにエンジンブレーキで減速しましょう。

○アイドリングストップ！

車を5秒以上停止する場合は、エンジンを止めると省エネになります。

環境フォーラム “地球温暖化を考えよう”

温暖化を抑制するには今何をすればよいか？等についての学習や、環境基本計画のエコ資源部会の取り組み報告をします。

日時…1月30日㈯午後1時30分～3時30分
会場…コミセンみかみ／対象…どなたでも（申込不要）／主催…環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」エコ資源部会、環境課

歴史の小窓
—学芸員のメッセージ—
(64)

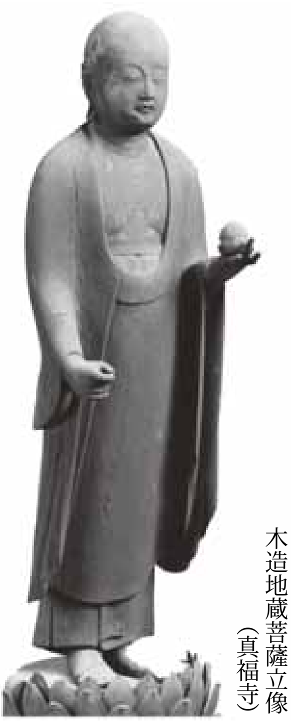
歴史民俗博物館
☎587-4410、Fax587-4413

平安時代の仏像
—特別陳列「仏教美術と信仰」より—

野洲市には数多くの文化財が伝えられています。指定されている文化財のうち、彫刻は国の重要文化財が21件、県指定文化財が3件、市指定文化財が27件もあり、特に平安時代や鎌倉時代の仏像が多いのが特色です。長い歴史を経て今なお大切に護持されているのは、地域の人々の信仰の厚さによるものでしょう。今回は、博物館の寄託資料の中から展示している平安時代の仏像を紹介します。

■木造地蔵菩薩立像（重要文化財）　真福寺

野洲市小篠原の真福寺の「地蔵菩薩立像」は、平安時代末期ごろの作で、国の重要文化財に指定されています。像高75・4㎝、目は彫眼で、持物は右手に錫杖をとり、左手に宝珠をのせます。衣にはほとんど衣文線を刻まず、当初は彩色仕上げであったと思われます。「地蔵さん」といえば石仏を想い起こすかもしれませんが、木像の「地蔵菩薩」は、頭髪をそり落とし、身に衣をまとい、錫杖を持ち行脚する僧形をあらわしています。


木造地蔵菩薩立像（真福寺）

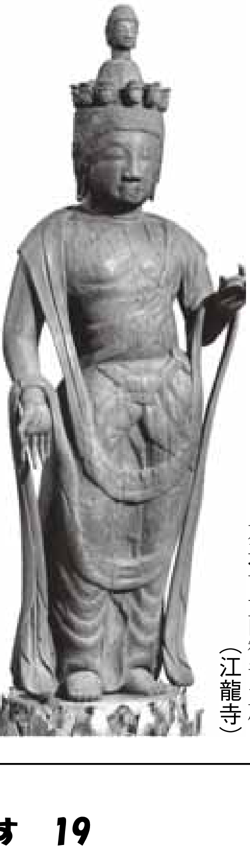
この仏像は、福林寺の伝来仏とされています。福林寺は、小篠原の山裾、野洲中学校付近にあった寺院で、壬申の乱の後、天武年間（672～686年）に鎮護国家のために建立されたとの伝があります。出土した瓦からみると、白鳳時代から室町時代、戦国期まで続く寺院ですが、記録も少なく詳しいことはよくわかっていません。山麓にはみごとな磨崖仏（室町～江戸時代・市史跡）が残されています。また、真福寺は「福林山」と号し、文禄年間（1592～1596年）に福林寺から改称したと伝えています。

■木造十一面観音立像（市指定文化財）　江龍寺

野洲市比江の江龍寺の本尊「十一面観音立像」は、地元の「観音さん」として親しまれてきました。平安時代後期、11世紀前半ごろの作で、像高61・5㎝、檜の一木造で、素地で仕上げられます。顔はやや右を向き、わずかに腰を左に曲げて右足をゆるめる姿をあらわしています。頂上に仏面、天冠台に化仏十面を配する十一面観音で、目は彫眼、条帛、天衣を掛け、左手は水瓶をとり、右手は五指を伸ばします。小像ですが量感にあふれ、堂々とした姿に刻まれています。

江龍寺は、江戸時代に旧野洲郡を中心とした観音霊場「湖東三十三所」の第二十一番札所となり、次の御詠歌を伝えています。

いくよ（幾世）へて
比江の村竹　をいしげる
（生い茂る）
なかにものり（法）の声
ぞかくれむ


木造十一面観音立像（江龍寺）

（歴史民俗博物館学芸員　行俊勉）

【1月の休館日】
月曜日、12日㈫（11日㈷は開館）、年始（1日～4日）

◆特別陳列「仏教美術と信仰」1月5日㈫～2月2日㈫

博物館の収蔵資料・寄託資料の中から仏像や仏画、大般若経などを紹介

◆歴史講座1月24日㈰午後2時～4時30分

「木簡と古代の役所ー西河原森ノ内遺跡から推理するー」徳網克己（市文化財保護課）／「渡来人とその文化」花田勝広（市文化財保護課）

※当日受付、定員120人（要入館料）